

田野町文化財調査報告書第22集

まわたり
馬渡第1遺跡

(株) [REDACTED] ガソリンスタンド建設に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

宮崎県宮崎郡田野町教育委員会

例　　言

1. 本書は田野町船ヶ山地区におけるガソリンスタンドの建設に伴い、田野町が
(株) [REDACTED] の委託を受けて実施した『馬渡第1遺跡』の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は次の体制で実施した。

調査主体 田野町教育委員会

教 育 長	鍋倉 政信
社会教育課長	前田 久育
同 楠佐兼係長	川口 博文
同 主 任	森田 浩史 (調査及び調査事務担当)
同 主 事 補	金丸 武司 (埋蔵文化財担当)

3. 現地の調査にあたっては下記の皆様の参加をえた。

4. 遺物の洗浄・拓本・実測・トレース等の室内整理作業には、[REDACTED]
[REDACTED] らの補助を得た。石器の実測は金丸武司が担当した。

5. 本書の執筆・編集は森田が担当した。

6. 本書に用いた方位は磁北、標高は海拔絶対高である。

7. 土層の表示は、農林省農林水産技術会事務局監修の標準土色帳を参考にした。

8. 本書に用いた略号 (S I) は集石遺構を示す。

9. 出土遺物・記録図面等は田野町教育委員会で保管している。

本 文 目 次

第Ⅰ章 序 説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査の結果	3
第1節 調査区の基本土層	3
第2節 遺構と遺物	3
第3節 まとめ	4

挿 図 目 次

第1図 町内遺跡分布図	
第2図 調査区概要図	5
第3図 基本上層柱状図	7
第4図 遺構実測図 (S I - 0 1)	7
第5図 出土遺物実測図 (土器・石器)	8
第6図 出土遺物実測図 (石器)	9
第7図 出土遺物実測図 (石器)	10

写 真 図 版

調査区全景 (北東から)	11
調査区北側 (東から)	12
トレンチ調査状況・S I - 0 1 検出状況・S I - 0 1 完掘状況	13
出土遺物 (縄文土器)	14
出土遺物 (石器)	15
出土遺物 (石器)	16

本 文 目 次

第Ⅰ章 序 説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査の結果	3
第1節 調査区の基本土層	3
第2節 遺構と遺物	3
第3節 まとめ	4

挿 図 目 次

第1図 町内遺跡分布図	
第2図 調査区概要図	5
第3図 基本上層柱状図	7
第4図 遺構実測図 (S I - 0 1)	7
第5図 出土遺物実測図 (土器・石器)	8
第6図 出土遺物実測図 (石器)	9
第7図 出土遺物実測図 (石器)	10

写 真 図 版

調査区全景 (北東から)	11
調査区北側 (東から)	12
トレント調査状況・S I - 0 1 検出状況・S I - 0 1 完掘状況	13
出土遺物 (縄文土器)	14
出土遺物 (石器)	15
出土遺物 (石器)	16



第1図 町内遺跡分布図

第Ⅰ章 序 説

第1節 調査に至る経緯

田野町は1市（宮崎市）5町（清武町・高岡町・北郷町・山之口町・三股町）と接しており、宮崎市・都城市・日南市へのアクセスも良いことから、今や交通の要衝の地となつた。また、近年は企業の誘致や宅地開発も各所でおこなわれ、とくに国道269号線に沿ったエリアの風景は目まぐるしく変貌しつつある。そのような状況下、各種開発行為と埋蔵文化財保護行政との調整は大きな課題となつてゐる。

ここで報告する「馬渡第1遺跡」は本米、国道沿いの北側のみ周知の遺跡として確認されていた。平成7年3月27日に（株）[]より船ヶ山地区のガソリンスタンド建設予定地における埋蔵文化財の有無についての照会があり、そこが国道を隔てて周知遺跡（馬渡第1遺跡）の南側であったため、3月29日に同地の試掘調査を町教育委員会で実施した。その結果、縄文時代早期の遺物が出土したため、同遺跡が建設予定地にまで至ることを確認した。4月5日に遺跡の保存について協議したが、工事施工上において現状保存はほぼ不可能と判断し、発掘調査による記録保存の措置をとることで合意した。同年4月24日付で発掘調査委託業務の契約を締結し、同5月4日より現地の作業に着手した。

調査にあたつては、（株）[]ならびに地元地区的皆様より多大なるご理解とご協力を賜つた。記して感謝申し上げたい。

第2節 遺跡の位置と歴史的環境

田野町は宮崎県中南部の宮崎市から西方約20kmの田野盆地を中心とし、東西・南北に約14km、山林が多くを占めるが総面積は109.01m²に至る。田野盆地は南那珂山地の北西部にあたる標高約200m以下の台地上に、西南西に大きく入り込んだ地溝状の凹地である。町内にはいたる所で遺跡が確認されているが、とくにこの台地縁辺付近に縄文時代の遺跡が数多く所在する。

馬渡第1遺跡の周辺においては、縄文時代早期から中・近世の遺跡の所在がすでに発掘調査により明らかにされている。二ツ山第1遺跡では、縄文時代早期中様までの土器と密集した砾群下に多数の集石構造が確認された。二ツ山第3遺跡では、縄文時代早期の包含層と中期の竪穴住居跡が4棟確認された。春日式等の土器片が出土し、消石を含むものも数点ある。元木遺跡では、縄文時代前期の包含層と弥生時代中期末の竪穴住居を伴う集落跡、中・近世の掘立柱建物群が確認されたほか、縄文時代早期と前期の土器片も出土した。早期の資料はきわめて稀薄であったが、前期は曾畠式土器の良好な資料が得られた。弥生時代の竪穴住居は人半が口向型間仕切り住居で、この段階では町内初の発見となつた。

[町教育委員会刊行調査報告書]

- 「芳ヶ迫第1遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第1集 1984
- 「芳ヶ迫第2・第3遺跡・札ノ元遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第2集 1985
- 「芳ヶ迫第1・第2・第3遺跡・札ノ元遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第3集 1986
- 「丸野第2遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第4集 1987
- 「丸野第2遺跡概要 2次調査」田野町文化財調査報告書 第5集 1988
- 「長戸遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第6集 1989
- 「八重地区遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第7集 1989
- 「合子ヶ谷遺跡」田野町文化財調査報告書 第8集 1989
- 「八重地区遺跡 前畠第1遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第9集 1990
- 「田野町内遺跡詳細分布調査報告書」田野町文化財調査報告書 第10集 1990
- 「丸野第2遺跡」田野町文化財調査報告書 第11集 1990
- 「八重地区遺跡 前畠第2・砂田遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第12集 1991
- 「二ツ山第1遺跡」田野町文化財調査報告書 第13集 1992
- 「井手ノ尾遺跡」田野町文化財調査報告書 第14集 1992
- 「二ツ山第3遺跡」田野町文化財調査報告書 第15集 1992
- 「元野地区遺跡 本野・高野原遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第16集 1993
- 「長戸遺跡」田野町文化財調査報告書 第17集 1994
- 「元野地区遺跡 高野原遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第18集 1994
- 「八重地区遺跡」田野町文化財調査報告書 第19集 1994
- 「田野町内遺跡発掘調査」田野町文化財調査報告書 第20集 1994
- 「永追第2遺跡」田野町文化財調査報告書 第21集 1996
- 「馬渡第1遺跡」田野町文化財調査報告書 第22集 1996
- 「元木遺跡」田野町文化財調査報告書 第23集 1996
- 「元野地区遺跡 高野原遺跡概要」田野町文化財調査報告書 第24集 1996

第Ⅱ章 調査の結果

第1節 調査区の基本土層

調査区は標高約119m前後のやや急な斜面に位置し、遺跡の限にあたるものとみられる。調査前の現況は畠地であり、耕作土の中に赤ホヤ火山灰のブロックが混入しており、縄文時代前期以降の遺物包含層は確認できなかった。また、表面採集できた土器片はいずれも早期のものであった。耕作土直下は黒褐色土1で、以下は黒褐色土2・暗褐色土1・暗褐色土2・火山灰堆積（A.T.）を基本とする。精査は黒褐色土1から暗褐色土2直上にかけておこない、暗褐色土1層から早期の遺物が出土した。

第2節 遺構と遺物

包含層掘り下げの段階で焼蹠がみられたので、集石遺構の分布を想定して作業をすすめた結果、暗褐色土1下層においてS1-01を検出した。S1-01は5cmからコブシ大の蹠が密ではないがまとまった状態で集められている。また、83cm×85cmで深さ15cmの土坑を伴い、やや粘質の黒色土が埋没するが、底面に配石された状況はみられなかつた。検出から完掘までに約120個の蹠を数えた。蹠はいずれも赤変しており、熱を受けていることがわかる。周辺には蹠が散在しており、国道側にあたる遺跡の平坦部にさらに数基の集石遺構の分布が想定される。遺構内から土器片等は出土しなかつたが、周辺の出土遺物及び検出層位から早期のものとみられる。

遺物は主に暗褐色土1層から、円筒系の条痕文土器が細片を含めて約20点、無文土器が5点、磨石が3点、石皿が1点、石匙が1点、剥片が5点出土した。条痕文土器（1・2）は口唇部を平坦につくり、そこにヘラ状施文具による斜め方向の押引き文をめぐらせ、さらにその外側直下に押引き文をめぐらせるもので（1）はこれが2段みられる。文様帶直下より横方向の荒く太い条痕を施し、内面はナデにより仕上げられる。（3～7）はその胴部、（9～15）は底部である。これはいずれも（1・2）同様の条痕がみられるが、底部に近くなるほど斜方向に崩れていくようである。（15）のみ底部外側に条痕を施す。以上の資料は器形を復元しうるほどのものでは無かつたが、いずれも同一型式の土器で、円筒形のバケツ状の器形を呈する「前平式」に位置づけられるものである。（8）は無文土器で型式等を推定できないが、円筒形を呈するものとみられる。

（21・24）は二次加工剥片で、（21）は縦長の剥片の下部側刃を片側から加工するもの（24）は黒曜石である。（22）は縦型の石匙で、縦長の剥片の下部側刃を片側から加工し

て刃部をつくる。石材はチャート。(23)は黒曜石の石核。(16~18)は磨石であるが(16)は主に中央に、他は側辺に使用痕がみられる。(18)は集石遺構に転用されたためか、熱を受け赤変している。(19)は角柱状の長方形の敲石で、一部使用痕がみられる。(20)は集石遺構に転用されたためか、熱を受け赤変しており顕著な使用痕がみられないが、おそらく石皿として使用されたものであろう。

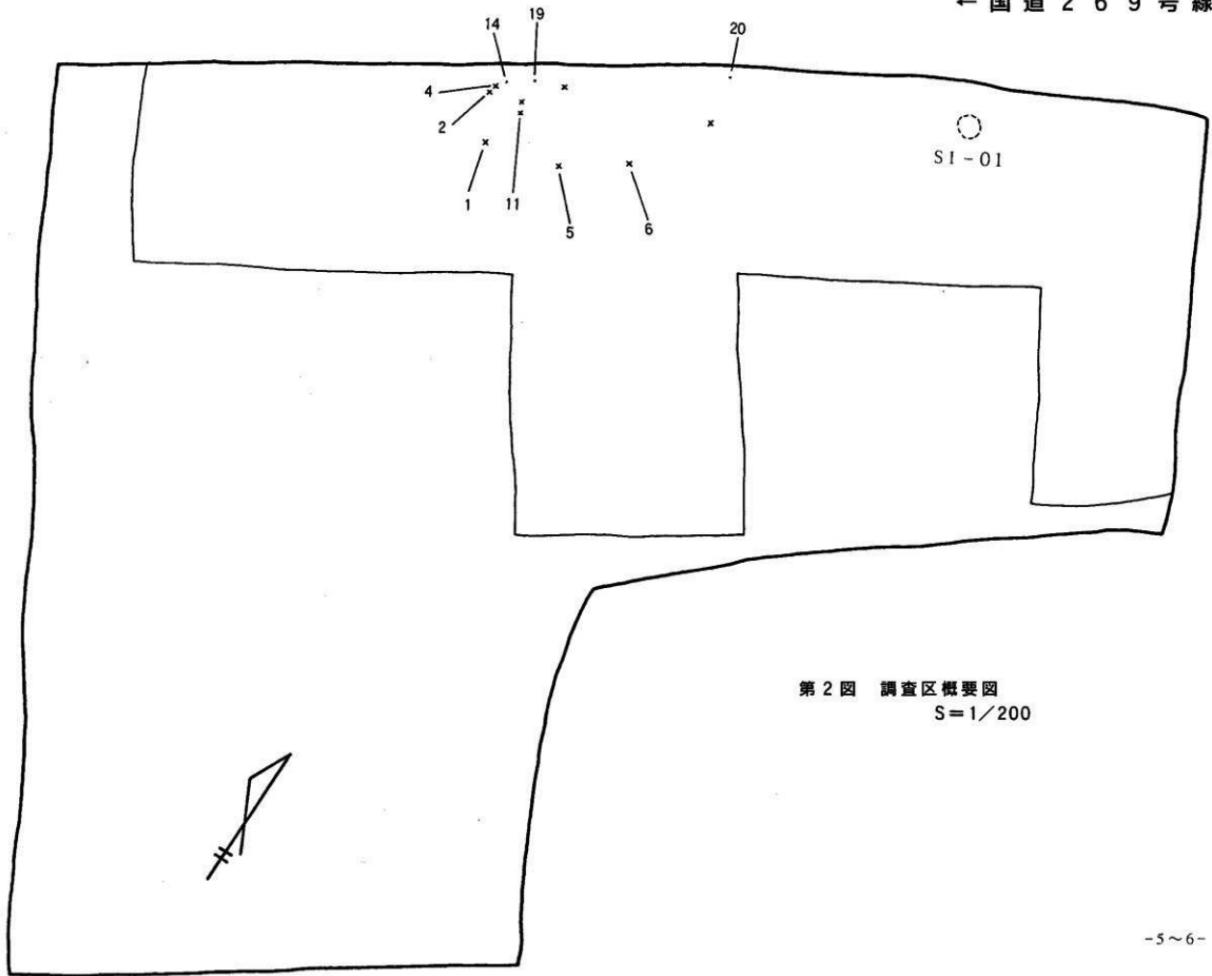
第3節 まとめ

調査の結果、馬渡第1遺跡の出土土器は前述のとおり縄文時代早期の「前平式」のみとも言える状況であった。早期の中でも、ごく短時期に営まれた遺跡であろう。さらに前平式の中のバリエーションはみられなかつたことから、このタイプが1小時間に単独で存在していたことを示す、貴重な結果が得られた。

遺構はS1-01のみであったが、他の土器・石器・焼碟の出土状況から、調査区外の国道路面下部分に、主に集石遺構が分布するものと考えられる。また調査区域が遺跡の南限にあたることなども確認できた。

集石遺構については町内の多数の遺跡から検出されているが¹、その規模や(廃棄等の)状況には様々なパターンがある。これらの大半は台地の縁辺もしくは地形の起伏の縁辺からの検出例が多く、更に遺構や碟の分布密度にかかわらず、部分的に広場的な空間や(碟分布の)空白を有する例が多い。近年は集石遺構の形態変遷などの研究も盛んにおこなわれつつあるが、これらの「出ない」部分の調査・検証も今後は重要な作業となるであろう。

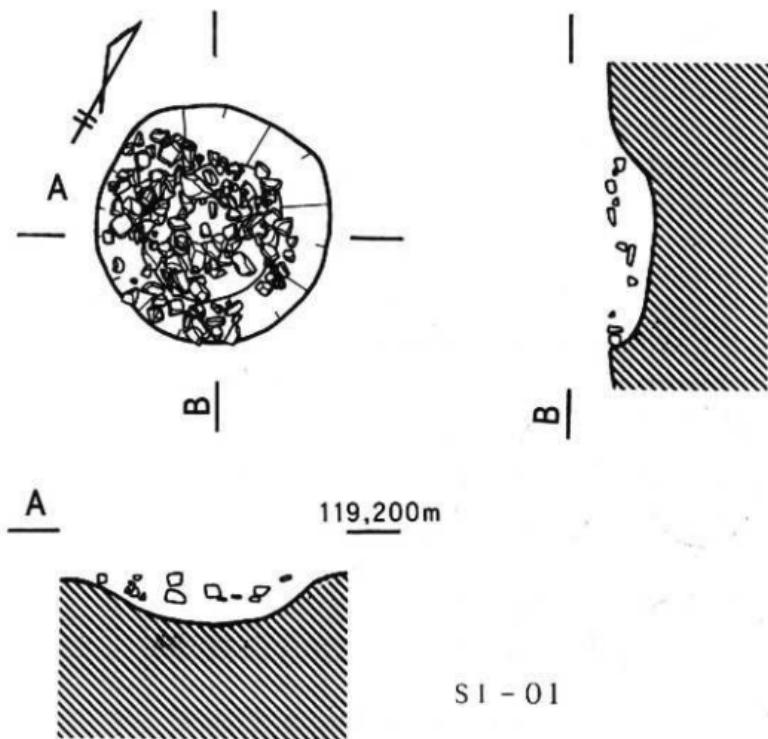
← 国道 269 号線 →



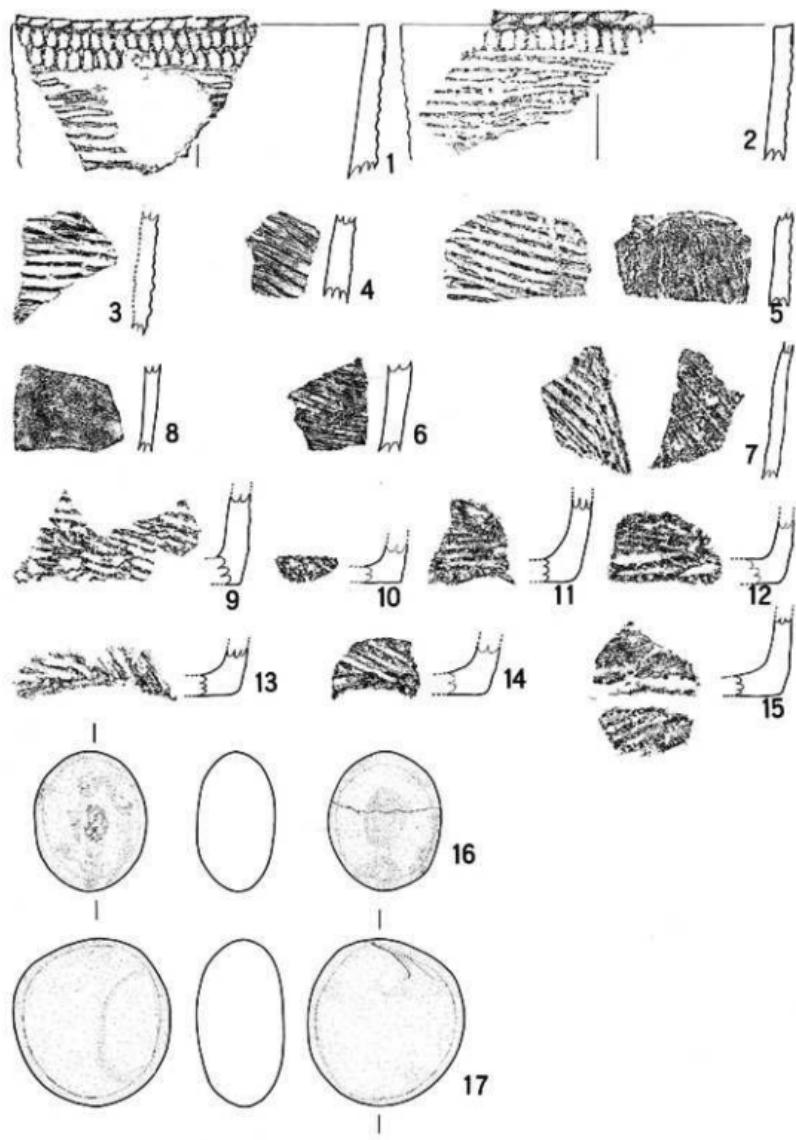
第2図 調査区概要図
S=1/200

「黒褐色土Ⅰ」	10 Y R	2/3 黒褐
「黒褐色土Ⅱ」	10 Y R	3/2 黒褐
「暗褐色土Ⅰ」	10 Y R	3/3 暗褐
「暗褐色土Ⅱ」	10 Y R	3/4 暗褐 (10 Y R 4/6 褐) (10 Y R 5/6 黄褐ブロック混)

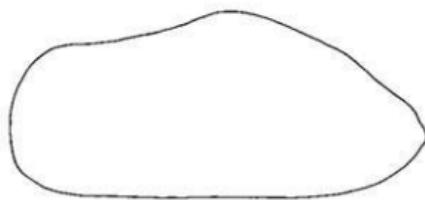
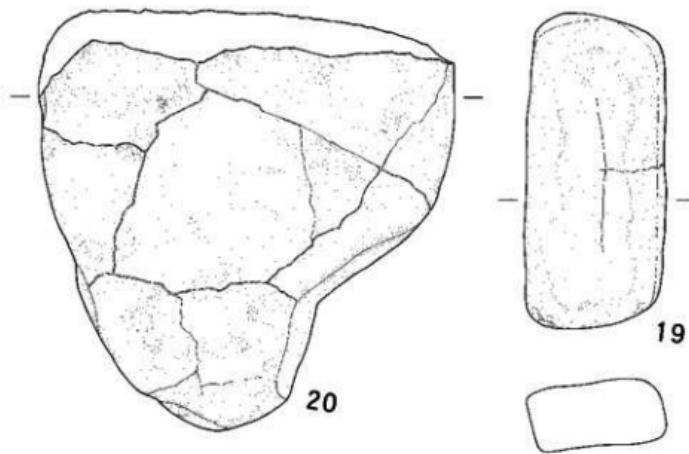
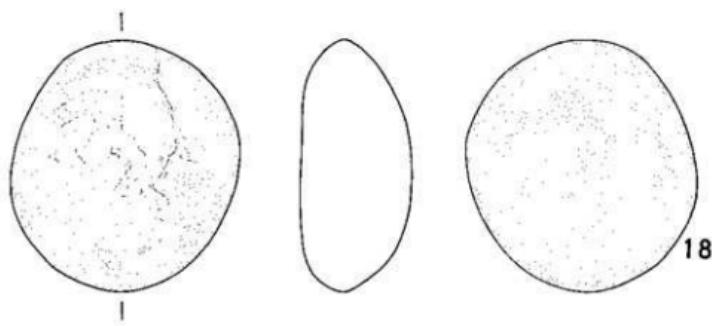
第3図 基本土層図



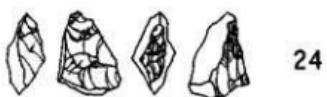
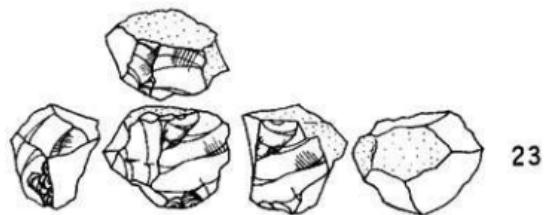
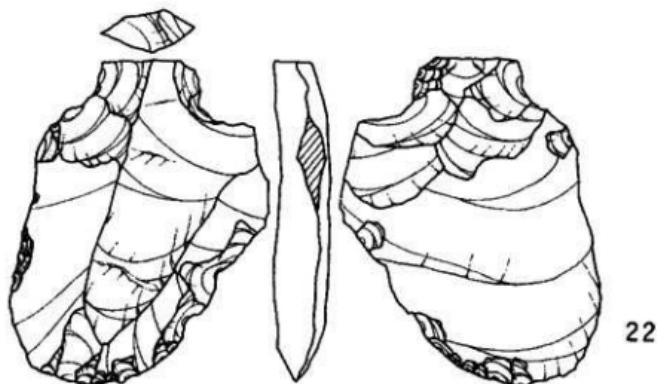
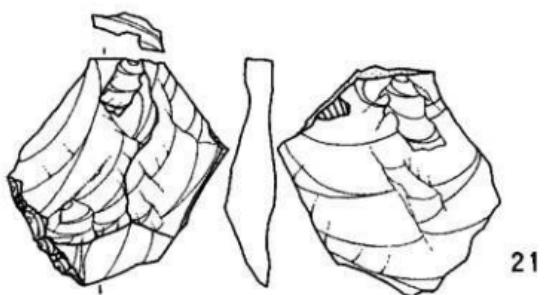
第4図 遺構実測図



第5図 出土遺物実測図 ($S = 1/3$)

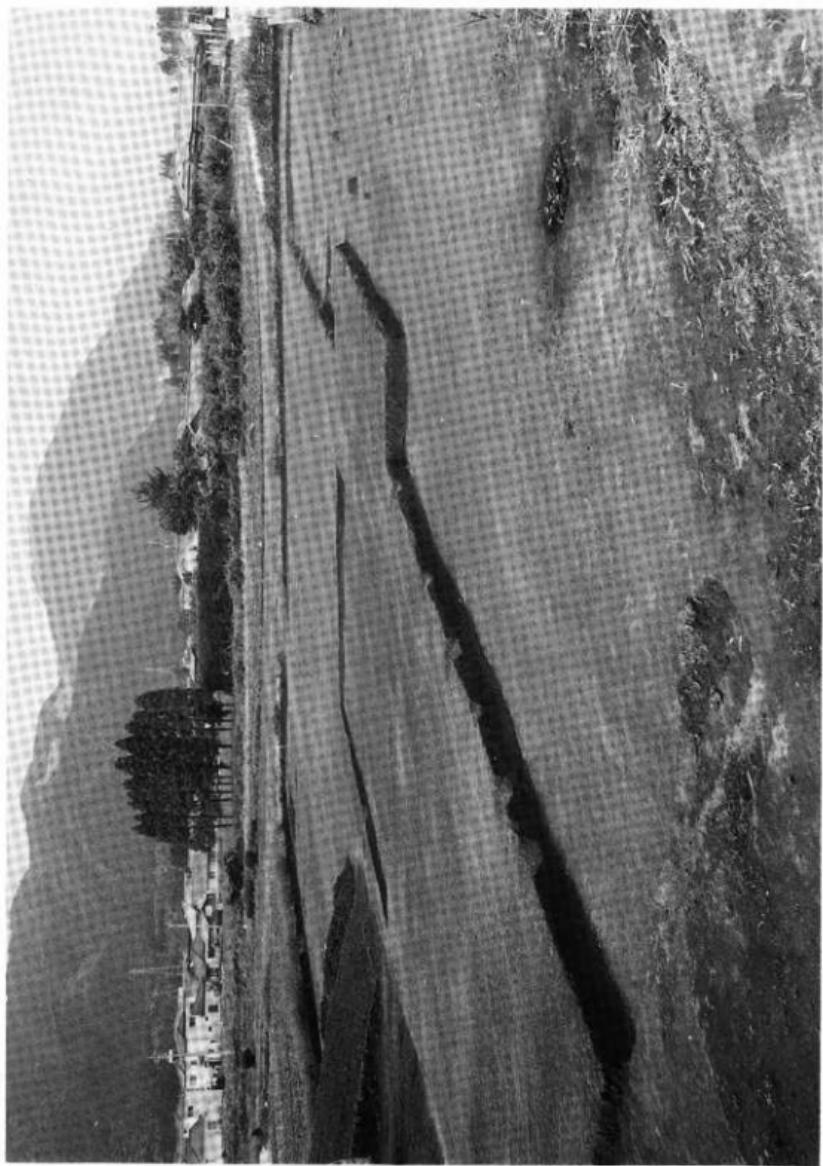


第6図 出土遺物実測図 (S=1/3)

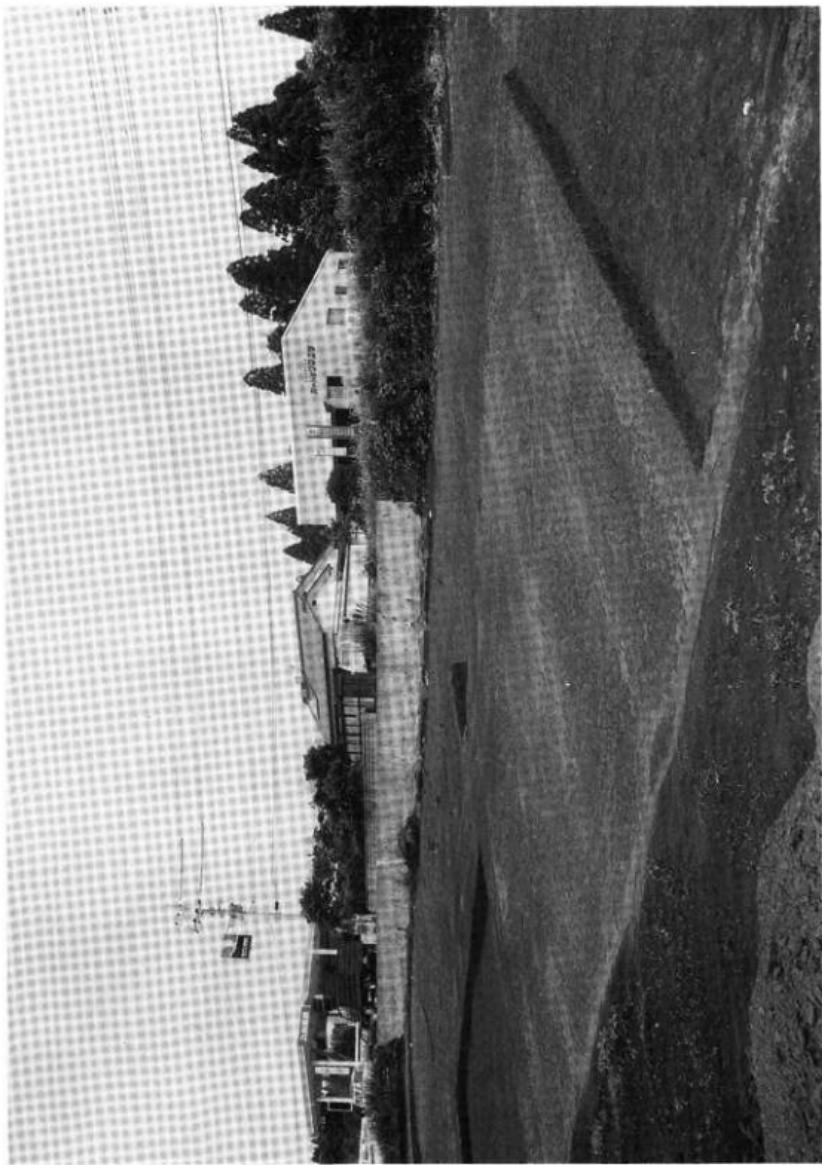


第7図 出土遺物実測図 (S=1/1)

調査区全景（北東から）



調査区北側（東から）

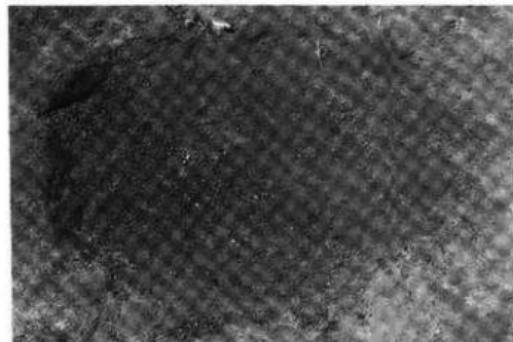




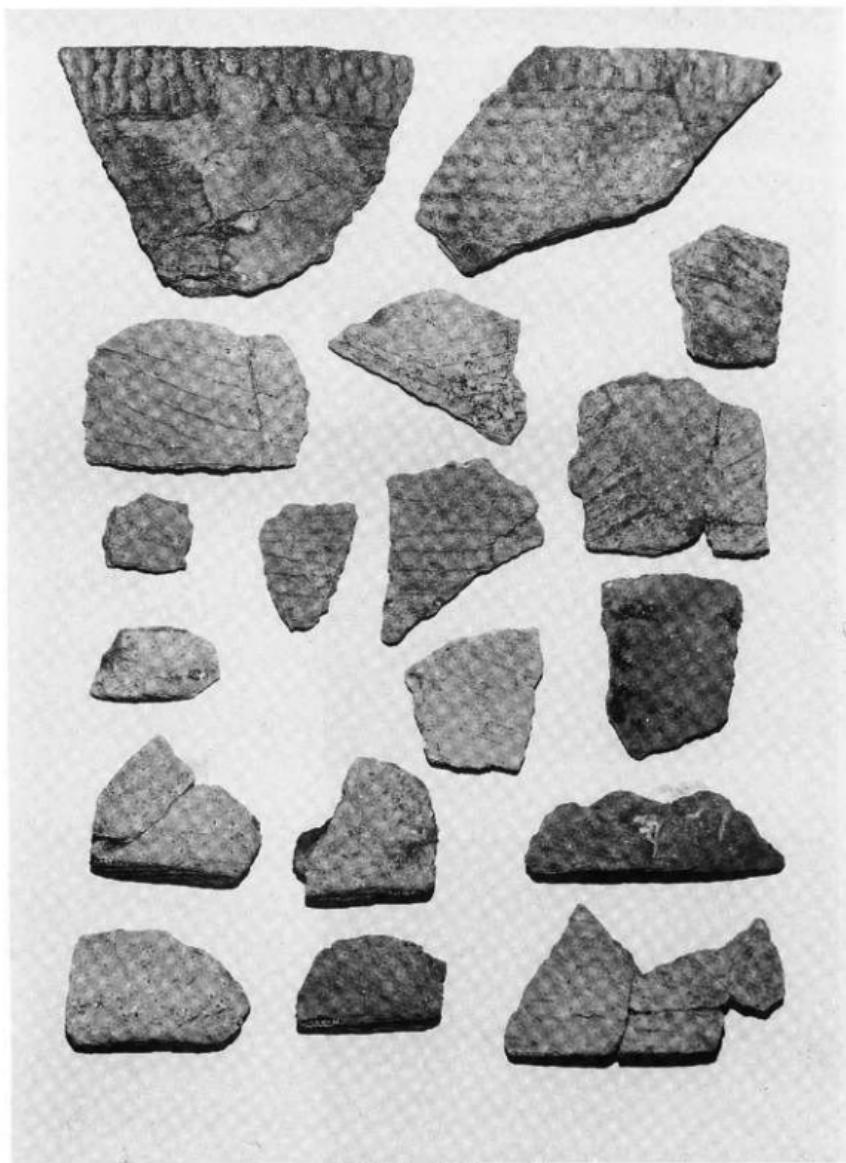
トレンチ調査状況
(北東から)



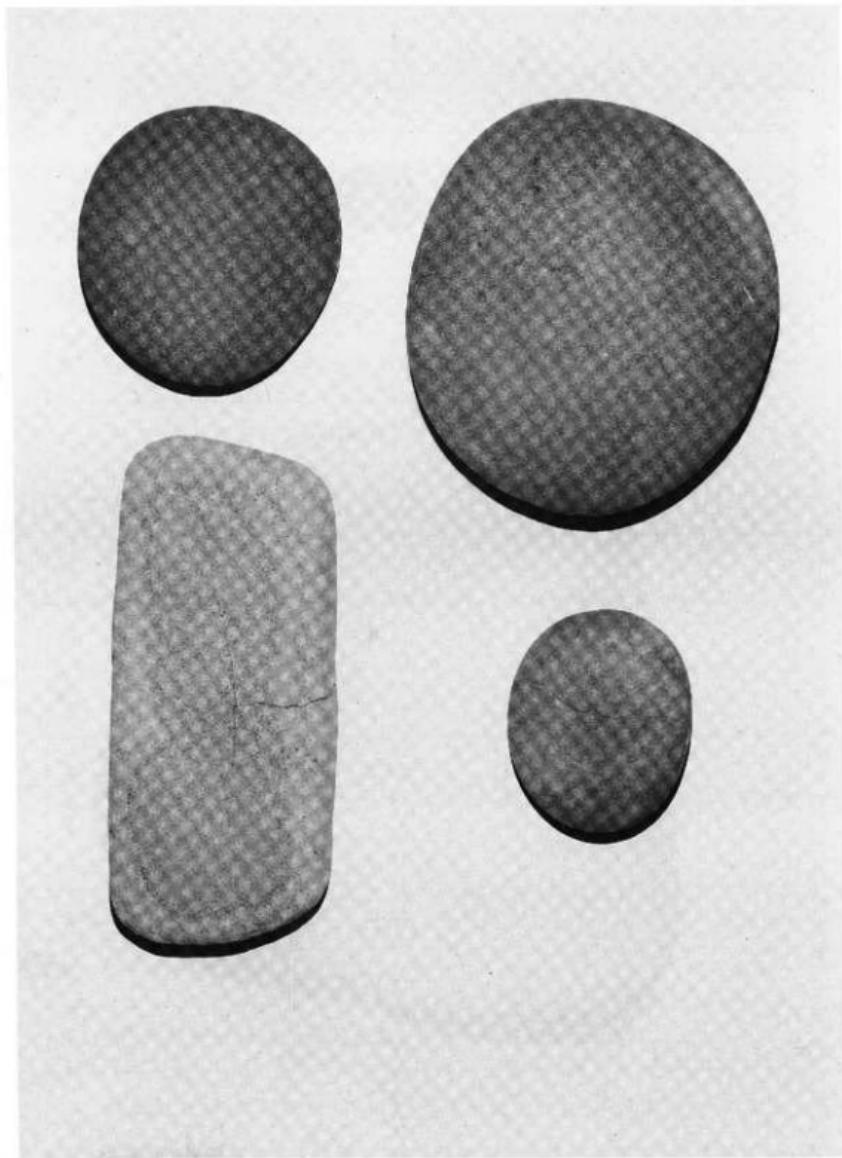
S I - 01 検出状況
(北から)



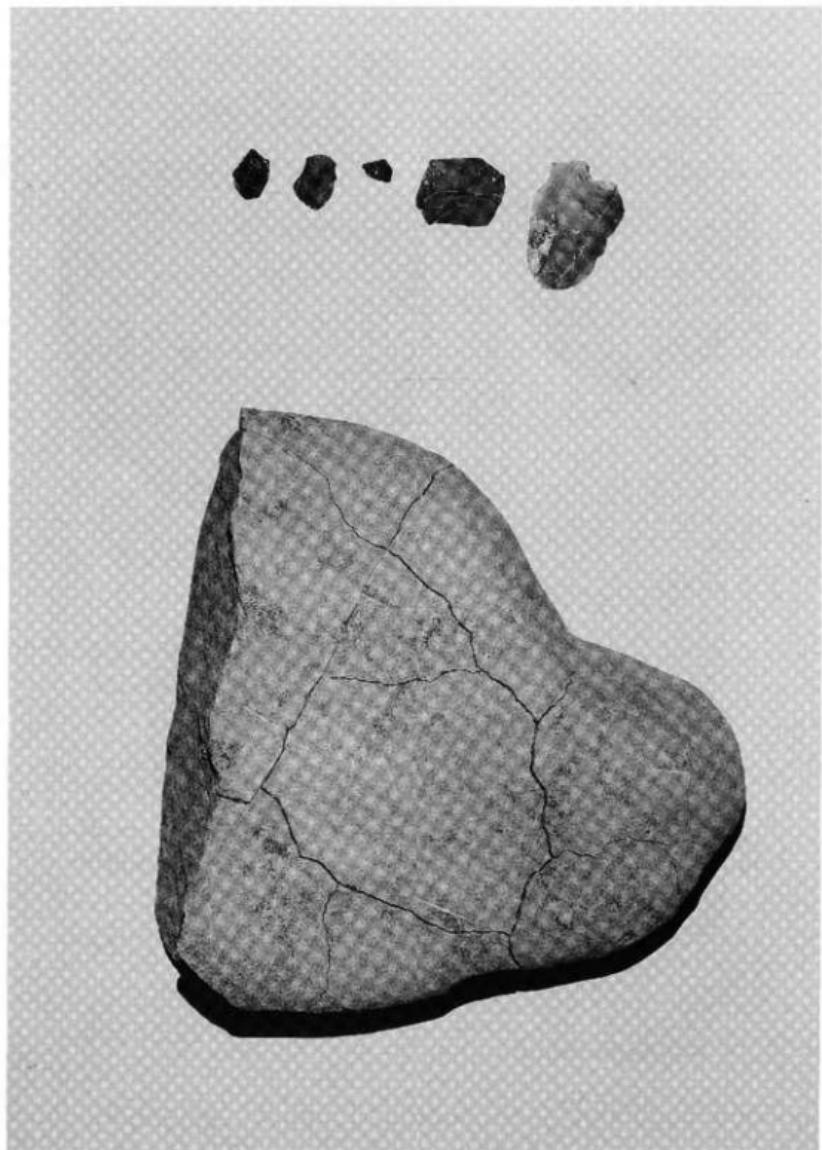
S I - 01 完掘状況



出土遺物（縹文土器）



出土遺物（石器）



出土遺物（石器）

報告書抄録

フリガナ	マワタリダイイチ イセキ					
書名	馬渡第1遺跡					
副書名	(株) [] ガソリンスタンド建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
卷次						
シリーズ名	田野町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第22集					
編著者名	田野町教育委員会 森田 浩史					
編集機関	田野町教育委員会					
所在地	宮崎県宮崎郡田野町甲2818番地					
発行年	1996年3月31日					
遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積
馬渡第1遺跡	田野町船ヶ山	4008			1995年5月4日～同年6月19日	約2000m ²
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
集落跡	縄文時代早期	集石遺構1基	縄文土器(早期前平式)			